



新潟県 支部報

'80年1月15日

No. 6 (冬)

(財)日本野鳥の会新潟県支部

'80年代の年頭にあたって

支部長 加藤 忠 一

支部規約の中に、生息地を守る運動というのがある。これは野鳥のための一連の自然保護運動を行なうということであるが、このことを云い出すと、いろいろと批判的意見や反対意見に遭遇する。御もつともなことである。しかしこれは一番重要なことであり、たとえ多くの困難や障害の伴うことであっても、強力に実行しなければならぬことだと思う。何も最初から敗北的に手をこまねている要はないように思われる。口はばったいことを申す気は毛頭ないが、たとえば身近かのフィールドに目を転ずるとそこには生息状況を脅かしている何らかの人工介入の事実を発見できる。どんなことでもい、実状実態を顕著に支部へ提起しよう。鳥がいなくなったフィールドはおしまいであるし、鳥のい

ないところでの探鳥会や観察会なんてナンセンスである。一致協力して御互いの宝であるフィールドを、不当な人工破壊の手から守りましょう。支部員130名大同団結し、真剣な話し合いをくり返せば、その中から必ず成算ある活路は開けてくるものと信ずる。

中央サイドのサンクチュアリー建設運動ももちろん重要ではあるが、その重要だとする認識、心情、その度合と正に同じものを各自のフィールドに向けて然るべきである。

実はサンクチュアリーと云えば、私たちの先達である故成沢多実也氏が、“野鳥養護林”という訳を当てられ、ある英文学や林学の専門家の激賞をかった。そして在住地の加茂山をフィールドにユニークな実践活動を続けられたという



< 尾瀬至仏山にて観察中の筆者 '79, 8月 >

事実がある。新潟県とはそういう歴史的風土の
ところでもある。

私たちは中央のことは中央のこととして、ボ
ツボツ支部として独自性とローカル性のあるサ
ンクチュアリー運動のキャンペーンを始めても
いゝのではあるまいか。それは又広義の意味で
の自然保護運動にもなることはもち論である。

戦後間もなくであった。清棲幸保氏が、ある
御著書の中で、野鳥を擬人化した次の要旨を述べ

られていたのを思い出す。“……昔はよかった。

緑が多くて我々は何処へ行っても自由に生活
できた。しかし今はどうであろう。こゝアルプ
スの一画しか安住の場所がない……”。私はこ
の言葉が印象的で妙に頭からとれない。戦後 30
数年、博士が鋭く予見されたとおり、今や国土
の緑は大きく失われ、自然破壊はスプロールの
名にふさわしく続き、都市化の波は無限に広が
りつゝあるのである。

《 中西悟堂 著 》

「野鳥ガイド」のこと

新潟市 本 間 隆 平

鳥類や動物に関する書物がはん濫している。
数年前に比べ、私の行きつけの書店はこの類の
コーナーが2倍の広さになった。また、絶版と
なっていたものの再版もさかんだ。清棲さんの
「日本鳥類大図鑑」、仁部さんの「野の鳥の生
態」、そして山階さんの「日本の鳥類とその生
態」といった具合である。

こうしたなかで私には忘れられない1冊があ
る。中西さんの「野鳥ガイド」（陸鳥編）であ
る。十日町にいた中学生の時、それをいつもポ
ケットに入れ、記載されている鳥の名前はもち
ろん、英名もほとんど知っている同級生がいた。
特に親しい仲間ではなかったが、それに感化さ
れて、私も本屋で買い、同じようにポケットに
入れて歩いた。第2次大戦後間もないころの出
版で、紙質は現在の更紙よりはるかに悪いもの
であった。十日町から加茂へ引越す時、ドサク
サに紛ぎれて無くしてしまったが、すぐに新し
いものを買った。今度は紙質も良く、中学、高
校、大学と10年以上も私のポケットで活躍し
た。いたるところに赤線や青線が引かれ、本文
がカラーになるほど酷使したものである。また、
高校時代、授業中に加茂山の方から響いてくる

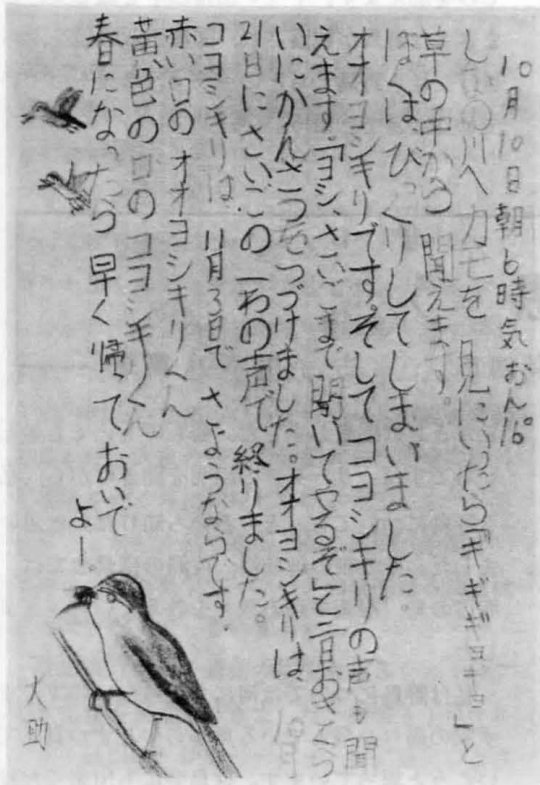
クロツグミの音が判らず、ひそかにポケットか
ら取り出して読みふけり、先生にぶんなぐられ
たこと、学生時代アヤメ平から尾瀬か平へ下る
オオシラビソの林の中で鳴くルリビタキが何ん
だか判らず、その本と首引きでルリビタキであ
ることをつきとめたこと等々各ページに少年時
代の思い出が刻みこまれていった。

加茂から新潟へ移り、清棲図鑑を買ったり、
興味がカモ類やシギチドリ類へと移ったことも
あって、ポケットから本棚へその所在を変え、
ひも解く機会もほとんどないまま保存されてい
たが、その後 数回の引越しをするうち、どの
時か判らないまま、いつのまにか紛失してしま
った。

昭和42年、稲田豊八さんの呼びかけで、ネズ
モチ平と法師温泉で中西悟堂会長を囲む探鳥会
があった。その時すでに絶版となっていた「野
鳥ガイド」の再版はないかお尋ねしたところ、
無いとのお返事を聞きがっかりしたものである。

鳥獣関係の書物が花ざかりのあおりをくって
読みもしない本が並ぶ自分の本棚をながめ、そ
の隅にあるはずの名著「野鳥ガイド」がふと思
い出された。

フィールド・ノートから



※(長岡市大島新町1丁目 塚越大助 小学2年記)

※ 10月10日に信濃川越路橋下流で冬羽に近いアジサシが1羽いました。口嘴は黒っぽくて、脚が赤く、ハンドブックに出ている別亜種の様な気もしましたがアジサシの実物を観察したことがなく不安。ユリカモメに追われて姿を消してしまつた。1人で出掛けるBW(バード・ウォッチングのこと)は少し変わった鳥に出くわすともう自信が持てません。探鳥会が楽しみです。

(三島郡越路町岩田2978 西沢一郎 記)

※戸倉では、ツグミの声があちこちから聞かれ冬を告げておりますが、2羽のカワセミが元気よく池で小魚を捕えています。ベニマシコが庭で見られますが、♀の色をした個体がよく鳴いていますが、これはベニマシコの♀が鳴くのでしょうか、又は♂の幼鳥なのでしょう。

(中蒲原郡村松町上戸倉 笠原喜一 記)

私の探鳥地

津川町 齋藤久夫

「毎朝早く、どこへ行くのですか」「キリン山へ野鳥を観に」、「野鳥ってそんなに面白いのですか」、「うん、彼女たちの生き生きとした姿を見たら感動するよ」、キリン山は、私の家から歩いて10分位の所で、町の中にありながら野鳥の種類の豊富さは他に例をみないほどです。四季おりおりの野鳥が年中みられ、渡りの季節にはシマセンニュウ、コメボソムシクイ、ノジコ、アオジ、ノビタキ、エゾムシクイ、アオバ

ト等が4~5日滞在していきますが姿を見るのはノビタキを除いて容易ではありません。

早春の頃、冬鳥のカシラダカやアトリの大群がさえずる大合唱は遠くからでもにぎやかに聞こえます。夏鳥はセンダイムシクイ、ツバメが最も早く、次いでキビタキ、オオルリ、ヤブサメ、サンショウクイの順で渡来して来ます。私が野鳥にのぼせた(?)のは、2年前のことで、キビタキの見事な姿とさえずに魅せられてか

らのことです。以後、どんな野鳥でも図鑑をたよりに一步一步知ってゆくのが大変楽しく、夜が明けるのを待ちかねてキリン山へ出かけます。6月には待ちに待ったサンコウチョウに出会い、カセットをぶらさげ、彼女に嫌われないようにしながら長い尾、青い目を十分に堪能しました。麓を流れる水辺には、ヤマセミ、カワセミ、セグロセキレイ、カワガラス、イカルチドリ等が生息し、特にカワセミの背は、金属的なルリ色、

胸のレンガ色が朝日を受けて水面を飛翔する情景は「すばらしい」の一語です。

冬季には高山から越冬組のミソサザイ、ウソ、ヒガラ、コガラ、ルリビタキ等が静寂な林に楽しみを加えます。キリン山は四季を通じて、さまざまな野鳥が観察され、図鑑と双眼鏡をぶらさげた私と野鳥たちとのドラマは今後もつづいてゆくことでしょう。

野鳥を想う

新潟市 古川 八重子

野鳥については何にも知らずに過ごして来ました。家の周りにはスズメしかいないと思っていましたが、あるとき、家の前の電線によく止っている、背中が黒くて胸が白い鳥や、春から夏の間中、家の前の休耕田で、朝から晩まで騒がしくさえずり続けている鳥、そして冬、庭のピラカンサの実やサンゴジュの実をついばんでいた白っぽい鳥は、一体何という鳥だろうかと興味を持ちました。

それから気がついて家の周りを見回してみると、けっこう何種類か鳥がいるようです。この間、スズメかなと思って双眼鏡をのぞいたら、白い胸に黒のネクタイを結んだシジュウカラでした。それから、モズやカッコウが隣の家の屋根に止まってさえずっていました。このような野鳥が家の周りにはなんてほんとうに意外でした。私の住んでいる所は新潟市郊外の新興住宅地で、まだ周辺には田んぼや小川がありますので、いろいろな野鳥が飛んで来るのでしょうか。

去年寄せていただいた探鳥会は、私のような初心者が実際に野鳥を知るのにとってもいい機会でした。特に五頭山麓の探鳥会で、オオルリを

見たときは感激しました。姿も声もとても美しい鳥ですね。リーダーの説明を聞きながら、私も野鳥についてもっといろいろ知りたいと思いました。その後の越前浜、佐潟の探鳥会では、海辺の鳥、湿原の鳥の数々を教えていただきました。

私は野鳥については何にも知らないで、まず家の周りを飛んでいる鳥から少しずつ覚えていこうと思っています。探鳥会にも出来るだけ寄せて頂きたいと思っています。しばらくは、リーダーを始め愛鳥家の皆さんに、無知な質問をすることがあるかと思いますが、皆さんよろしく御指導の程お願いいたします。



繁華街に生活するツバメ

塩沢町 木 下 弘

大都会に野鳥を探しだそうと思えば結構私たちの生活に依存して生きる野鳥たちの姿に出会うものです。

ツバメに関心を持つようになってから、どこへ行くにも空飛ぶツバメの姿や、人家の軒先を借りた巣を探すクセがつかまりました。街中をやたらキョロ、キョロするので一緒に歩く妻も感じが悪いと同行するのを毛嫌いますが……。

県内の小さな都市ならまだツバメの姿を普通に見かけ、人家の軒下や新築された家屋の意外な場所をたくみに利用している光景にぶつかります。しかし、私の知るかぎり長岡、新潟のビルが立ち並ぶ街中で、ツバメの姿を見ることはごく稀となってしまいました。

今年東京新宿の雑踏中に生きる3ツガイのツバメ家族を見つけました。新宿3丁目マルイ地下鉄出口、伊勢丹デパート物品搬出口とさ

らに伊勢丹横隣り映画館と、かなり高いビルの壁に造られていました。マルイの店員に「あのツバメは、いつ頃からお宅のビルに巣造りしているのですか？」とたずねたら「あゝあなたはさっきから何かじっと見つめていましたが、ツバメの御親類の方ですか」とマジメ顔で答えられ、ハッとしたと共に、その機智に恐れいりました。丁度、歩行者天国の日で、夜がかなりふけているというのに絶え間ない人の列でした。この何%の人達が、このツバメ達に気づいていたでしょうか。この店員の言動から察する限りビルの谷間に生きぬこうとする小さな野生に暖かな声援を寄せてくれる人のいることを知りました。「ツバメの御親類の方ですか」我が家へ帰る車中もう一度口に出して言ってみると、思わず笑いがこみあげてきました。

新入会員の紹介

下記の方が、新入会員となりました。探鳥会でお待ちしております。今後ともよろしく。

- 134. 伊藤卓夫 949-05 糸魚川市山寺496
- 135. 塚田恒安 951 新潟市関屋恵町12-10
- 136. 柳瀬昭彦 946 北魚沼郡小出町向山中
- 137. 目黒きみ 940 長岡市信濃町2丁目4番地40号
- 138. 星野芳郎 940-11 長岡市滝谷町923の1
- 139. 新潟薬科大学自然保護会 950-21 新潟市新栄町5829-891

住所変更

渡辺範雄 956 新津市新町2丁目7の23

各地の鳥だより

◎中越ブロック 担当 大島 基
12月7日ツクシガモ(2), 12月25日ホオジロガモ(4), 同日アオサギ(9), いずれも長岡市信濃川長生橋上流にて

(観察者 塚越大助)

12月21日カワアイサ(2), カイツブリ(9), タヒバリ(2), 長岡市長生橋上流

(観察者 渡辺 央)

◎下越ブロック 担当 小野島学
11月3日ミヤコドリ(1), ハマシギ50, ユリカモメ(多), 新潟市関屋の信濃川で, 12月9~14日カンムリカイツブリ(1) 新潟市信濃川八千代橋上流, 12月26日ヒシクイ(200)新潟市太郎代上空

(観察者 渡部 通)

◎上越ブロック 担当 古川 弘
10月20日ヒシクイ(+300), 同日チュウヒ(2), 同日チョウゲンボウ(1), いずれも豊栄市福島潟にて

(観察者 小野島 学)

10月10日ヒシクイ(+1000), 東頸城中増田, 10月21日オオバン(4), ハジロカイツブリ(2), 同日オオバンの他にヒシクイ(+300), 場所同じ

(観察者 古川 弘)

9月16日クロサギ(1), 12月1~9日オオハム(3), 糸魚川市姫川河口, 10月20日ヨシゴイ♀(1), 西頸青海町

(観察者 小野 絹子)

事務局からのお知らせ

会員の皆様 明けましておめでとうございます。本年も皆様のご助言, ご叱正を心からお願い申し上げます。ニューイヤードウオッチングはいかがでしたか。暖冬の影響で居残り組(?)の野鳥たちが随所で観察されます。

野外で仲間にお会いしたら気がるに声をかけあってみて下さい。

◎別紙要項の通り2月と3月に探鳥会を開催します。多数の方々の御参加をお待ち申し上げます。

◎身近かな鳥だよりをお寄せ下さい。ハガキで結構です。

◎販売コーナーもぜひ大ぜいの方々のご利用をと考え, 図鑑類, カレンダー, ポスター等用意してあります。

◎今号は多くの方から投稿をいただき編集スタッフもうれしい悲鳴の連続(?)でした。特に小学2年の塚越大助君には図も書いていただきました。今後ともよろしく。

(編集担当 瀬尾 澄子)

支 部 報 No.6 (冬)

1980年1月15日

日本野鳥の会新潟県支部

〒959-44

新潟県東蒲原郡津川町三郷乙1193

渡部 通 方

TEL 02549(2)2956・5045

振替 新潟 6002

編集担当 瀬尾 澄子